

ロールが期待できる。

5 等張化剤としてD-グルコースが用いられている。

<解答> 3、4

理論問題での出題例(病態治療)

■第103回薬剤師国家試験 問182

<横断的なアプローチ>

本設問は病態治療の出題ですが、薬理や実務の内容をつなげることでアプローチが可能です。

ドネペジルは中枢性コリンエステラーゼ阻害薬であり、同じ作用機序を持つ薬物であるリバスチグミン、ガランタミン臭化水素酸塩の併用はしないこと、あるいはドネペジルの用量は3mgから開始し、10mgまで増量できることから正答を導くことができます。

問182 65歳女性。脳血管疾患の既往なし。数年前より軽度認知障害があり、CT検査で大脳皮質の萎縮が認められ、アルツハイマー病と診断された。下記の処方で服薬は正しくなされていた。最近、見当識障害や判断能力が悪化し、日常生活に介助が必要となることが多くなったため、心配した家族に同伴されて病院を受診した。本患者の今後の薬物治療方針として正しいのはどれか。2つ選べ。

(処方)

ドネペジル塩酸塩錠 5mg 1回1錠 (1日1錠)
1日1回朝食後 28日分

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 ドネペジル塩酸塩の増量 | 【実務の目線】用法用量を思い出そう! |
| 2 リバスチグミンの併用 | |
| 3 ガランタミン臭化水素酸塩の併用 | 【薬理の目線】作用機序を思い出そう! |
| 4 メマンチン塩酸塩の併用 | |
| 5 メチルフェニデート塩酸塩の併用 | |

<解答> 1、4

つながる範囲とその対策

具体例で提示したように、近年の国試では各科目固有の知識だけでなく、関連する他科目の知識を活用することで正答を導くことができる問題が多くあります。そのような問題を解くためには、それぞれの科目の知識をしっかりと習得した上で、他科目に関連する内容をつなげて勉強しましょう。以下に、医療系科目のつながりについて提示します。皆さんが学修する上での参考になれば幸いです。

<薬理>

疾病の発症部位と薬物の作用部位をつなげる問題が出始めています。そのため、作用部位と作用機序をしっかりと理解した上で、疾病の特徴を理解し、薬物と疾病のつながりについて考えましょう。

<薬剤>

薬物動態学では治療のテーラーメイド医療関連、製剤学では実務の服薬指導についての内容や注射剤・輸液の調製に関する内容(配合変化、容器、添加物など)、物理薬剤学では製剤材料の物理学的特性(反応速度論、溶

考えよう!

キャリアデザイン



キャリア・ポジション社長

西鶴 智香

プロとは何か

①

職業・薬剤師の使命とは

今月からのテーマは「プロとは何か」についてです。薬剤師の仕事は、未だに国民から正確に理解されているとはいえません。例えば患者は、処方箋を薬局に持って行って待たされると、たとえ薬剤師が、必要があって医師に疑義照会を行っていたとしても「どこかに電話してるヒマがあるなら、早く出して」などと言いかねません。そうすると薬剤師は患者の要望に応えようと、薬を早く渡すことを重視してしまいがちです。

ここで考えたいのは「薬剤師の使命」です。それは一体、何でしょうか? 薬剤師法1条によると、薬剤師の任務は「調剤、医薬品の供給、その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」とあります。もっとわかりやすく簡潔に言うと、何をすることでしょうか?

私は薬学部のカリヤ講義や社員研修で、薬学生や薬剤師に「薬剤師の使命とは何か」と問いかけています。すると、「患者一人ひとりに合った薬を出すこと」「疑義照会をして、正しく調剤すること」などの回

答が返ってきます。そこで私は再度質問します。「そのことは、ある目的を達成するための行為ではないか」。再度問います。「薬剤師は、仕事を通じてどんな目的を達成したいと思っているのか。それが使命ではないか」

そうすると今度は「その人のQOL(人生の質)を上げること」との声が挙がります。しかしQOLの向上となると、他の多くの職種もその使命を持っています。例えば、私のようなキャリアカウンセラーも、カウンセリングという行為によってクライアントは快適な生活に戻ることができるので、使命にはQOLの向上も当てはまります。

医師の使命とは何でしょうか。医師の使命は、病気を治すこと。治せないなら医師は要らないといわれます。その使命感で医師は日々の自己研鑽を怠らないのだと思います。では、薬剤師の使命とは一体何でしょうか。何のために薬剤師は存在しているのでしょうか。じっくり考えてみてください。

解性、分散系など)について、つながりを意識して学修しましょう。

<治療>

薬物治療の問題を正答するためには薬物の作用機序、用法用量からのアプローチなどが不可欠となります。そのため、薬理学で作用機序、実務で薬物の用法用量を確認することが重要となります。特に頻出の疾患に関してつなげて学修しましょう。

『ダメ。ゼッタイ。』だけで大丈夫!?

危険ドラッグ問題の表と裏

~学生に知ってほしいこれからの薬物乱用防止について~

[著] 加藤 哲太・北垣 邦彦・嶋根 卓也
益山 光一・松田 勉・安田 一郎

薬物乱用問題について様々な立場や専門性を持つ著者達が、危険ドラッグを中心とした薬物乱用の問題点や正しい知識、防止教育のあり方についてやさしく解説。

「ダメ。ゼッタイ。」による一次予防にとどまらず、使用者・依存者の早期発見・介入、治療・リハビリなど二次・三次予防による再発防止の重要性について正しく理解できる

危険ドラッグ等の規制薬物だけでなく身近な医薬品の乱用や処方薬乱用において期待されるゲートキーパーとしての薬剤師の役割がわかる

学校薬剤師が小・中・高校生の薬物乱用防止教育の授業を行うために役立つ内容も掲載



薬事日報社

A5判/146頁/定価2,300円+税

薬事日報社 ご注文は、オンラインショップ(<http://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。